

<p>事例 学生募集活動の強化</p> <p>学校案内の刷新と充実</p> <p>～ 修紅短期大学 ～</p>	<p>本事例の中心人物</p> <p>入試委員会・委員長(教員)</p>
--	--------------------------------------

事例内容

【概要】

修紅短期大学は栄養士資格取得へのカリキュラム再編、学科名称の変更を機に前例主義的に作成していた学校案内を刷新、充実させた。この改善は同短期大学の学生確保戦略の一手段であり、背景には同短期大学がもつコア資源を再確認した戦略がある。

学校案内の刷新とともにテレビ CM の実施や教職員による高校訪問を通して、高校生へ同短期大学が新しくなったことを積極的にアピールした。この結果入学志願者数は 2 割増、社会人学生の確保にもつながった。

【背景】

同短期大学では入学志願者数の減少が続き、平成 10 年度以降は入学志願者数が入学定員を下回るようになった。地元の高校生は「短期大学へ行くより専門学校へ行って手に職をつけたい」という希望が多く、このニーズに応じて、平成 14 年度に「栄養士資格」を取得するカリキュラム編成とし、平成 15 年度に生活文化

学科を食物栄養学科に名称変更した。

学校案内は新しい学科をアピールするため大幅に刷新した。過去 3 年間の学校案内は表紙のみの変更にとどまっていたが新しい学校案内は「進路や学生生活が写真を通してわかる」ことに主眼を置き、目で見て将来がイメージできる学校案内とした。

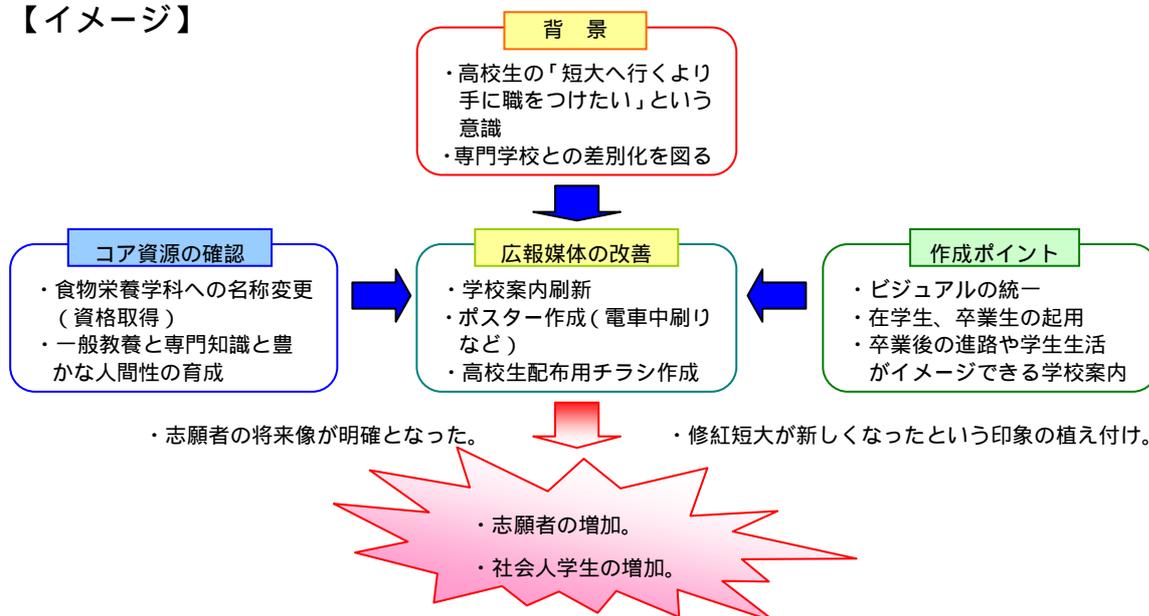
【刷新した学校案内のポイント】

高校生に近い存在である同短期大学の学生や卒業生を写真に起用し、どのような進路が開けるのかを中心に紹介した。同時に、進路に必要な知識と体験を示した。また、高校生が学生生活を具体的に思い描くことができるように留学や実習風景の写真を多用した。

学校案内、ポスター、電車中刷り広告で使用する写真を統一し、媒体同士の相乗効果を用いて高校生へ強い印象を植え付けた。

学校案内の配布手段は、短期大学名のないクリアフォルダー(ファスナー付)に学校案内、募集要項、ボールペンをセットし高校生が手に取り持ち帰りやすい工夫をした。

【イメージ】



【効果】

学科名変更、学校案内刷新を中心とする広報活動の強化を通して、学内が一丸となれた。教職員のベクトルが統一され「新しく生まれ変わる」という意識が学内に浸透した。

高校生の入学志願者数が増加するとともに、主婦を中心とする社会人学生の入学志願者数および入学者数が増加した。

目的意識が強い学生が入学するようになった。資格取得による効果はもとより、将来の進路をあらかじめ紹介することにより、「あの先輩のようになりたい」という目標を持った学生が入学するようになった。

【苦労している点】

学校案内の写真は在学する学生を用いている。学生に依頼すると断られることが多く、また、学校案内に記載するコメント原稿が集まりにくい。

学生の自然な聴講姿勢や実習風景を撮影するため、学生への配慮が必要となる。

一年を通して作成する仕事のため、他の仕事に比べ長期間関わることとなる。

成功のポイント

入試委員会にすべてを任せるのではなく、教職員すべてが主体性をもって学生確保に取り組む姿勢をもつこと。

学内が一丸となってアイデアを出し合うこと。

単独のメディアだけに頼ることなく、複数のメディアを利用し相乗効果を目指すこと。

高校訪問の際の意見聴取や地元支援者の声を大切に、高等学校や地域を巻き込んで短期大学の教育内容をアピールすること。

今後の課題

学校案内とリンクしたホームページを作成し、ホームページの充実を図る。

バス広告への掲載や看板の設置など学校名を広め浸透させる広報活動の幅を広げる。

常に受験生（顧客）の視点に立ち、広報媒体を見直し改善する姿勢を持ち続けること。

委員の所感

修紅短期大学は学校案内を刷新することによって入学志願者数を増加させることを実現させた。しかし、その背景には経営戦略の見直しや教職員の地道な高校訪問など様々な要因が機能して入学志願者数増に結びついている。

たとえば、平成13年に学校の名称を設立時の名称に戻し、地域からの信頼回復を図ったことや、学校の人材育成の理念、方針を明確にし、人材育成の手段・方法を明らかにすることによって高校生の漠然とした進学意識を明確にし、自らの将来像を描ける工夫を学校案内に盛り込んだ。さらに入試委員会をコンパクトにして機動性を高めたことや委員を固定し使命感、責任感を醸成したことなど様々な工夫、改善がある。

同短期大学の取り組みを振り返ると、学生募集活動に大切なこととしては、教職員すべてが主体性を持って取り組むこと、学校案内など一つの媒体の改善にとどまるのではなく、複数の媒体を視野に入れて改善を行うこと、さらに受験生の視点に立って情報を収集し、創造力を発揮して広報活動に取り組むことの重要性を改めて認識する機会となった。